

## 後藤班

後藤綾子・河村裕之・櫛谷元治  
・小林侑平・丸山充

### ○ 準備に関する感想と反省

私達の班は、最初あまり作業を上手く分担することができず他の人と資料がかかぶってしまったりとなかなか作業をスムーズに進めることができませんでした。しかし夏頃から班のみんなが資料を集めに国会図書館へ行ったりしているうちに、たくさんの情報を得ることができたのですが、ディベートするテーマが大きすぎてどの分野に絞ってプレゼンを作ればよいかわからなくなり苦戦しました。でも、相手のチームの人とどこに焦点を当ててディベートをするか話し合うことが出来たので、途中から作業を進めやすくなりました。

また私達は中国側の強みを探していたのですが、現状では強みと言えるものがなかなか無くてその点でも苦戦しましたが、先生のアドバイス等してもらいスライドを作り上げていくことができました。

本番が12月は、ほぼ週2~3のペースでみんなで集まり作業を進めていたので、自然とみんなが仲良くなり団結力ができてさらに作業しやすくなりました。ゼミの時間以外でみんなで集まる時間をたくさん作ってまで仕上げたスライドは、私達にとって満足いくものになりました。

### ○ 当日の報告とそれに対する質疑の概要

「中国経済は日本にとって脅威か〜パソコンと自動車のケース〜」というテーマで私達は「中国経済は脅威である」という側からディベートに臨みました。

#### ① パソコン

まず雁行形態発展論を説明し、それに基づき出荷台数・国内市場のシェア・全世界でのシェア・メーカー別の全世界での出荷台数シェアを分析し、最後に中国パソコンの強みと将来性について述べました。

#### ② 自動車

自動車はⅠ中国自動車産業は国内市場をベースに合弁メーカー中心であること、Ⅱ先進技術を吸収、Ⅲ国内だけでなく国外へ進出（輸出）の3つを強みの柱として、雁行形態発展論に基づき分析しました。

生産台数とシェア・自動車工業産業政策の概要・合弁企業の説明・実際中国企業が日本へ進出している記事などをまとめ、最後に今後の展望を述べました。

相手からの質問は、パソコン分野でハードとソフトのことを聞かれました。

### ○ 当日の感想と反省

当日ディベートをしてみると、相手チームとまったく焦点をあてる場所が違ったので、もっと準備の段階でコミュニケーションをとり論点を一緒にしておくべきだったと感じました。

また予想される反論を考えていたにも関わらず、当日は予想と違うところを反論され少々戸惑ってしまいました。なので、事前の準備はやりすぎてくらい準備しておけばよかったなと思いました。

このディベートでチーム一丸となって頑張ることの大切さややりがい、達成感は本当に貴重な体験だったと感じます。この経験を通して今後は、準備をしっかりしていろんなことに取り組んでいきたいと思いました。

(文責 後藤綾子)